

製品名: RAGE ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16863**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	MOK
別名	MOK; RAGE; RAGE1; MAPK/MAK/MRK overlapping kinase; MOK protein kinase; Renal tumor antigen 1; RAGE-1
遺伝子 ID	5891.0
SwissProt ID	Q9UQ07
免疫原	抗血清はヒト MOK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 261-310

背景

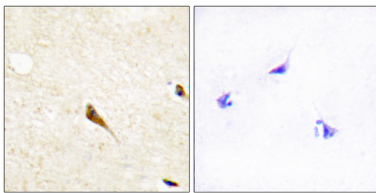
MOK タンパク質キナーゼ(MOK) ホモサピエンス この遺伝子は MAP キナーゼスーパーファミリーに属します。この遺伝子は尾部型転

写因子2(Cdx2)タンパク質によって制御されることがわかりました。コードされているタンパク質は腸陰窩の上皮細胞に局在し、上部陰窩および下部絨毛領域の細胞の成長停止および分化に役割を果たしている可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012年12月],触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素制御:リン酸化は酵素活性を上昇させるようです。、機能:いくつかの外因性基質をリン酸化でき、自己リン酸化を受けることができます。、PTM:自己リン酸化されます。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 CDC2/CDKX サブファミリー。、類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、組織特異性:心臓、脳、肺、腎臓、脾臓で発現し、胎盤、肝臓、骨格筋でもごく低レベルで発現する。網膜でも検出される。、

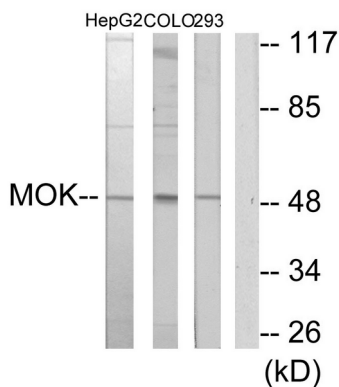
研究分野

神経科学、神経学プロセス、神経変性疾患、アルツハイマー病、アミロイド、感覚系、視覚系、心血管、動脈硬化、糖尿病関連、血管炎症、炎症性メディエーター、疾患

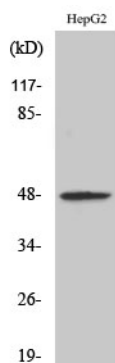
画像データ



MOK抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



MOK抗体を用いた HepG2、COLO205、および 293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



RAGEポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析